

さわらび

2018. 5. 21 No. 6 文責：大塚

授業の様子から



昔々、私たち（50代）の子ども時代は、英語がカセットテープレコーダーから流れてきて、先生はひたすら日本語で説明するという授業でした。

でも、今の英語の授業は全然違います！

5/18（金）の3年生「英語」。黒田教頭先生が、英語でどんどん指示していきます。ときどき日本語で補足するものの、英語でやり方を説明して英語で活動がすすんでいきます。写真は、「give and take dash」という活動で、プリントに載っている質問事項をどんどん質問して、相手が答えていきます。この日は新しい文型が出てきたのだそうですが、互いに質問し合いながらコミュニケーションする力をつけています。また、話すだけでなく、毎時間『中学校でこれだけは身につけてほしい基礎英単語1200』（通称『これ単』）を使って、書くことにも継続して取り組んでいます。

このように書くこと、読むこと、話すことがバランスよく取り入れられて、授業中もいっぱい英語が使われている授業です。

2年生の国語の教科書に「アイスプラネット」（椎名誠）という文章があります。

【あらすじ】以前は、いそろうの「ぐうちゃん」（おじさん）の話を面白がっていたが、最近その話を「子供っぽい」「ばかばかしい」と感じ始めている「僕」。その話をすっかりクラスメイトにしてしまい「ありえねえ」と言われたことをきっかけに、「僕」は「ぐうちゃん」の部屋には行かなくなる。しかし、少し長い仕事から帰ってきた「ぐうちゃん」の部屋を久しぶりに訪れた「僕」は、「ぐうちゃん」から、いそろうを卒業して旅に出ることを聞かされる。せっかくな話聞く気になった「僕」は、「ぐうちゃん」のいなくなった部屋の前で、「ほらほら、やっぱりだっじゃないか」と思う。しかし、しばらくして「ぐうちゃん」から届いた手紙を読んで……。

この授業のあと、花奈さんが、「僕」の立場になって「ぐうちゃんへの手紙」を書いています。

ぐうちゃんへ

手紙をありがとう。無愛想な態度をとったり、「勝手に行けばいいじゃないか」なんて言ってごめんなさい。本当はぐうちゃんに行ってほしくなかったんだ。手紙の中に入ってた2枚の写真を見て分かったよ。ぐうちゃんの話は「ほら話」なんかじゃないって。疑ったりしてごめんなさい。ほくも、ぐうちゃんみたいに勉強して、たくさん本を読んで、「不思議アタマ」になって世界に出てみるよ。そして、自分の目で確かめてみるよ。ほくにそんな気持ちを教えてくれてありがとう。ぐうちゃんは、やっぱりかっこいいな。また日本に戻ってきて、世界の楽しい話を聞かせてね。

花奈



『蕨岡のお宝発見！ 仕事編』のインタビュー準備も進んでいます。5/16は、インタビューに行かせてもらうところに、それぞれが電話連絡をしました。聞きに行かせていただくのは、農業（景平耕二さん）、保育所、郵便局、川漁師（税所さん/口鴨川）です。5/24（木）に行きます。その準備として、インタビューする内容を考えたり、依頼の電話をかけたという取組をしています。



四万十市小中学校PTA連合会定期総会・研修会

5月20日（日）、中央公民館において今年度の定期総会と研修会が行われました。以前からお知らせしておりましたように、本校PTA会長の松田和彦さんが市P連の会長として選出されました。蕨岡中学校PTAとしましても、保護者の皆様・地域の皆様とともに会長をサポートしながら取り組んでいきたいと思います。

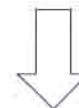
また、総会に引き続いての研修会では、鳴門教育大学教授の阪根健二先生をお招きして、『子どもたちの健やかな育ちを考える』と題しての講演がありました。大まかな内容を紹介いたします。

子どもたちの健やかな育ちを考える

～PTAとして何ができるのか～

阪根健二

- コミュニケーションの重要性…いかに伝えるか
- 現代の課題…○間違った情報（デマや噂）
 - 対応の仕方が分からない
 - 自分のことと考えない
 - 社会性の不足



こういうことを背景にして、スマホの記事には、「省略」「誇張」「先入観」がある。

○見えていない自分を意識することが大事

■「文科省白書と徳島県阿南第1中学校区アンケートからみえてきた、子どもたちにつけさせたい力」

- ①自分で考え、進んで取り組む力（目標・計画）
- ②自分で粘り強く取り組む力（集中・優先順位）
- ③自分を向上させる力（記録・振り返り・改善）

※この「子どもたちにつけたい力」に加えて「子どもたちの生きる喜び3条件」等々ありましたが、それは子どもたちのみならず、私たちおとなにもあてはまる内容だったように思います。